

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	消化器内視鏡診療における鎮静条件と回復室滞在時間に関する検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2024年 2月 日 ~ 終了 西暦 2027年 3月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	上部消化管疾患 (約 200 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2022年 3月 日 ~ 至 西暦 2022年 6月 日
研究概要*	<p>【背景】近年、消化器内視鏡検査における鎮静の需要が増加している。鎮静は患者の快適性を向上させ、検査の成功率を高める重要な要素である。しかし、鎮静薬の使用には呼吸抑制や血圧低下などの偶発症のリスクが伴う。また、鎮静下内視鏡後の監視解除基準はまだ確立されていない。</p> <p>内視鏡検査は、胃、大腸、食道などの消化器系統の疾患の診断や治療に広く用いられている。患者の不快感を最小限に抑えつつ、適切な鎮静を提供することは、医療スタッフにとって重要な課題である。しかし、鎮静薬の選択や投与量、鎮静後の回復室での患者の管理については、ガイドラインにおいても確立されていない。</p> <p>【目的】既存の診療情報を用いて、内視鏡検査時の鎮静薬使用状況と鎮静後の回復室滞在時間、監視解除状況等を評価し、患者条件、鎮静条件が回復室滞在時間に与える影響を検討することを目的とする。</p> <p>【方法】既存の診療情報（血液検査、画像検査、治療内容、内視鏡検査記録等）、臨床経過の閲覧・評価を行い、患者条件、鎮静条件が回復室滞在時間に与える影響を検討する</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。

別紙第2号様式

研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳
------------	----------------------